

豊中駅周辺再整備構想 NEWS LETTER

Vol.2
2021.6

令和3年(2021年)6月5日(土曜)に、豊中市役所にて豊中駅周辺再整備構想策定に向けたワークショップ(第1回目)を実施しました。22人の様々な方にご参加いただき、短い時間でしたが、活発な意見交換が行われましたのでご報告します。

1

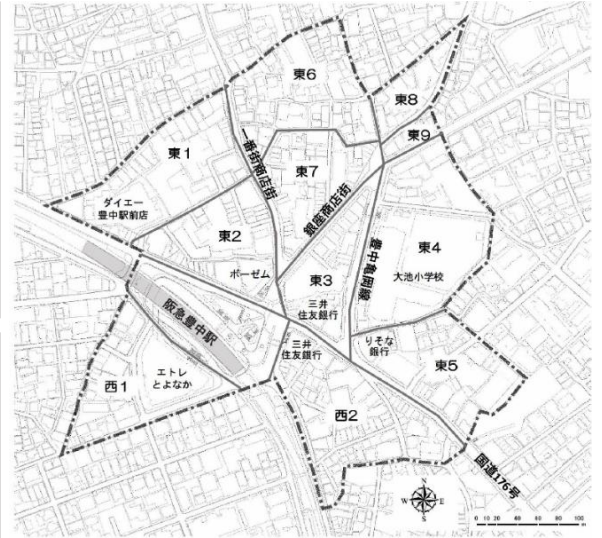
豊中駅周辺再整備構想(素案)の説明

まず、豊中市からこれまでの経過と豊中駅周辺再整備構想(素案)についての説明を行い、今回のワークショップの目的とテーマをお伝えしました。

これまでの経過

「豊中駅前まちづくり構想(H7)」(豊中駅前まちづくり協議会)の考え方を踏まえ、平成9年度に豊中市が策定した「豊中駅前のまちづくりについて」(以下、基本方針という。)では、公共施設の整備や面的な整備など、まちづくりの方針を示していますが、策定から20年余りが経過し、人口・世帯構成や交通量、建築更新、建物用途の変化が進んでおり、市民がまちに期待する役割やニーズも変化していると予想されます。

このことから、現状に合った整備方針確認する基礎資料として、本構想を策定することとなり、令和3年(2021年)2月には意見交換会を実施し、3月に豊中駅周辺再整備構想(素案)を作成しました。



再整備構想対象地区位置図

豊中駅周辺再整備構想(素案)におけるまちづくり方針

令和元年度のアンケート調査結果から、歩行空間の充実に加えて、魅力的な商店街の形成を支援する取組が求められていること、「銀座通り・一番街」を中心とした歩行者空間の拡充と賑わいづくりに向けた道路空間の有効利用が特に重要かつ優先度が高いことが分かり、その骨格をなす「銀座通り」と「一番街」に係る取組、「府道豊中亀岡線と市道東豊中線の交差部」における歩行者と自転車の安全性の向上は、優先的に取り組むべき内容に位置づけました。

2

ワークショップ

第1回目の今回は「商店街の将来像」をテーマに、4つのグループに分かれ、アンケート調査や前回の意見交換会で出た商店街を中心とした課題に対する対策を考えていただきました。その後、グループ内で共有、整理を行っていただき、最後に全体発表をしていただきました。

主なご意見内容は以下のとおりです。

交通

- 車と歩行者と自転車の通行空間を分離
- 車道が狭いため、自転車は歩道を通行せざるを得ない。自転車の通行空間を整備すべき。
- 人と自転車が回遊できる楽しいまち
- 空き店舗や未利用の建物を駐輪場にする。市が地元積極的に働きかけ、地元と協力して設置する。
- 車いすが安全に通行できる平坦な通路が必要。
- 電動キックボード、電動自転車など新しい乗り物との共存も必要。

にぎわい

- 空き店舗活用では、まちのブランドイメージを定めて、イメージ戦略に合う店舗を誘致すべき。その際のインセンティブ等の仕組みが必要。
- 人工デッキを使って音楽や漫才などイベントをしてはどうか。カラオケ発表とかハモネブとかにぎわいに。
- ○○市等を実施し、お店を出したい方たちに出店を呼び掛けてイベントを実施してはどうか
- ニーズは何か考える。豊中駅周辺を「知らないだけ」という可能性もあり発信が必要。

その他

- 地域住民が自ら、駅周辺のテーマやコンセプトの検討に参加し、アイデンティティを形成するのがよいのではないかと。
- 小学校と連携し防災拠点の形成を行ってはどうか。Wi-Fiや下水道(トイレ)、ソーラー発電(充電)を導入する。キッチンカーで非常時の食を確保する。
- テーマ、コンセプト、キャッチフレーズを設定して、よりこのエリアの魅力を上昇させたい。

(グループごとに出された意見を抜粋し、カテゴリー別に整理しました。)

3

今後の予定について

令和3年7月3日(土曜)に第2回ワークショップ開催予定。その後、意見公募手続きを経たのち再整備構想策定を予定しております。

